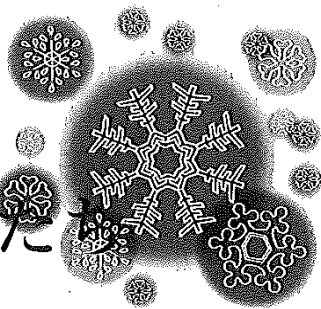


手をつなぐ 親だ



編集・発行
社会福祉法人山形県手をつなぐ親の会
〒990-0021 山形市小白川町二丁目3-31
山形県総合社会福祉センター3F
TEL (023) 623-6572 FAX (023) 623-6571
発行責任者: 守谷 俊雄 (山形県手をつなぐ親の会理事長)



別れて偲び難きは愛別離苦の嘆きなり

社会福祉法人山形県手をつなぐ親の会

理事長 守谷 俊雄

お別れの時、もう大いに悲しみましたが、別れてからはあなたへの思いが募ってさらに悲しいです。

諸行無常の教えは、嫌というほど知っているつもりでおりましたが、日々の生活にまぎれそれを忘れておりました。

十一月十四日だったと思います。

後藤局長から、理事長の風邪の兆候が、なかなか良くならないので、九日の夜、検査入院されたので、その後県手をつなぐ親の会活動に支障が来さないようにと、十一月十七日から十二月三十一日まで、親の会理事長職務代理者の委嘱を受けました。

その後、病院にお見舞いにお伺いした時も、検査が終われば元気なお姿で退院されるものと信じて帰ってきました。

十一月二十五日、入院中の理事長から松風園改築に伴う諸々の件や、全国育成会香川県大会の件を心配されての電話がありましたので、そのようなことは心配なさらずに、「自分の体をご養生ください」と申し上げ、大会出発の挨拶をして電話を切り、二十八日に大会へ出発いたしました。

大会任務を果たし、十二月一日、

無事仙台空港に着き、やれやれと東北高速道に乗り、菅生サービスエリアに着き、休息いたしておりましたら、先に帰着していた後藤局長から、理事長の病気急変の報が携帯電話に入り、そのまま赤湯に帰らず東根の病院に直行し、病室に入るなり、「理事長、理事長」と数度叫びましたが、酸素吸入をして荒い肩息で何の返事も返ってきませんでした。まずは、

と奇跡を願ひ断腸の思いで後ろ髪引かれる気持ちのまま病院を後にし帰宅したところ、間もなく事務局長から電話が入り、只今十時二十六分息を引き取られたとの悲報でありました。やっぱり駄目でしたかと、色々

と理事長との出合いが思い出され一夜を過ごしました。

十二月四日、谷地斎場にて茶毘に臥され、十二月五日午後二時から阿部家と山形県手をつなぐ親の会の合同葬も好天に恵まれ、理事長生存中の徳の高さに愛別離苦を惜しむ告別の式でした。

本当に長い間ご苦労さまでした。理事長の徳を偲び、いささかなりともご遺恩にお報いいたす決意をお誓いし、結びといたします。 合掌

立場に立つたら、立場に立つて……

社会福祉法人山形県手をつなぐ親の会
理事 吉池道夫

昨年十二月一日に「理事長の様な急変された」との突然の報に接し、ただ驚きとともに病院へ直行したものの、呼び掛けにも応ずることができず意識の戻らない状態でご他界なされました。
十一月に検査のため入院され、打ち合わせ等で何度か連絡する経過の中で、十二月中には元気になられ公務復帰するものとはかり思っていた私の頭の中では、事の整理をつけられないまま時間が過ぎてあつという間に今日を迎えている、というのが正直なところ

です。

ここに、改めて故阿部忠男前理事長のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

私にとって、生前最後の言葉として印象的なのは、病院のベッドの上で（半ば冗談的に）「俺がさんなねごと、いっばいあつから、まだまだ死んでいらんねのだノ」との言葉です。

生前の理事長の親の会業務に対する姿勢は正にこの言葉が象徴するように、全体を正確に捉え、派



栄光園改築テープカット



生する問題・課題にはスピーディーにタイミングを合わせの確に処理し、そして事後確認をする。

常々口になされていた「立場に立つたら、立場に立つて責任を遂行しなければならぬ」を地で行く行動力でした。

平成四年より始まった「栄光園全面改築」運動が九十年の二カ年事業として比較的短期間に実を結んだのも、このような理事長の考え・行動がベースにあつたのもと思つていきます。

施設運営上の喫緊の課題として、志半ばであつた「松風園全面改築」「友愛園移転新築」、そして中期的には「万世通動寮改築」「天童ひまわり園増築」「万世園改築」「万世福祉の里診療所の安定経

営」等々、今後整備を進めていかなければなりません。
故阿部忠男前理事長の施設運営の熱い理念を胸に、守谷俊雄新理事長を中心に各施設足並みをそろえ、誤りなき施設運営を心掛けなければならないと思つていきます。

遺志をついで

—— 県立養護学校建設に向けて ——

天童市手をつなぐ育成会

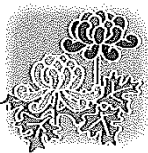
会長 安喰昭吉

故阿部理事長が、お亡くなりになる直前まで情熱を傾けられたのが、村山地区に養護学校を建設するための活動でした。
平成十四年九月に、県議会に請願書を提出して採択されたことにより、県に検討会が設置され、自身も検討会のメンバーとして建設推進を強力に訴えてこられました。

村山地区で現に苦労している親たちは、阿部理事長の精力的な働きに感謝しながら、固唾を飲んでその成り行きを見守ってきました。振り返ってみると、十月十六日養護学校建設を推進してくださいとある遠藤天童市長さんの計らいで金森副知事さんに天童、東根、寒河江市親の会合同で陳情に伺った際、同席してくださった阿部理事長が鬼気迫る表情で、その必要

性を訴えられました。我々親たちも陳情に伺ったという立場を忘れて、その真摯な思いに姿勢を正して聞き入ったところです。
今考えるとその時の火の出るような訴えは、余命を悟った上での最後の訴えだったのかもしれない。間もなく体調を崩された理事長は、養護学校が建つところを見ることができませんでした。

養護学校建設が実現するか否かはまだ結論が出ていません。理事長の遺志を継いで、村山地区のみならず県内の各親の会の総力を結集して実現を図り、墓前に報告したいと思つています。



阿部理事長さんにはげまされて

上市市手をつなぐ私たちの会
事務局長 山川 秀雄

私が江口先生の家に行ったら、山形県手をつなぐ親の会の阿部理事長さんが、亡くなられたと聞かされて、信じられなく声も出ませんでした。ただ涙だけがでてきました。

昨年の九月の山形県知的障害者福祉大会でお話をしたのが、最後になりました。

「山川君、手をつなぐ私たちの会は、上に立つ人が苦しんだり、なやんだりしながら、それをのりこえていくと、みんなが楽しくなる活動を、いっぱいさがすことができるんだよ。そうして、みんなががちりと手をつないで、明るい気持ちで活動ができるんだよ。いいか、山川君、がんばって前に進んでいくんだぞ。」と、私の肩をたたいて教えてくださいました。このことが、私たちの会に遺言となっていました。

思い出すと、平成五年、私たちの会をつくる時からはげましてもらい、平成六年「上市市手をつなぐ私たちの会」の発会式をやる



第11回山形県知的障害者福祉大会で表彰状をいただいた時

ことができました。

理事長さんは、「山形県ではじめての本人の会を、みなさんが力を合わせてつくりあげたことは、親の会に新しい考え方を教えてくれました。これからほんとうに手をつないで、まず十年を目ざしてがんばってください。」と、ここにこしてあいさつをしてくださいました。

一番強く思い出に残っているの

は、平成十二年天童市で行われた東北ブロック大会本人部会の運営を、理事長さんが私たちの会を信用してまかせてくださったことです。

私たちは、役員を中心にして何十回も集まり、理事長さんがかかりさせないようになんががいろいろけんめいに考えて、ぬげたりしないように、こまかく計画をまとめました。記念品もみんなで作りました。

当日をむかえ、理事長さんの顔を見て、勇気が出てきました。阿部正俊参議院議員を助言者におむかえして、二百人以上の参加者とともに、本気になって話し合うことができました。

理事長さんに、「今までで、最高の本人部会だったよかったです。」と、ほめられ、私たち会員みんながひとつにまとまってやれたことが、理事長さんにお返しできたとうれしく思っていたのです。

十六年度が十年目となるので、楽しく、私たちのためになる活動をいっぱいやらうと思っていたのに、理事長さんに見てもらえない

のが、とつても残念でくやしくなりません。

ここにこした理事長さんの顔を

思い出し、私たちは、これからも力を合わせて前に進んでいきますので、見守ってってください。

大げやき作業所と阿部前理事長

東根市手をつなぐ親の会
会長代行 高橋 清

当時のことを今振り返ってみると、阿部前理事長の努力が思い出される。

今後の設置、運営のための資金集めをしやすくするには、別の組織を作り多くの人々に参加して頂くべきなどの提案があり、昭和十六年五月八日、東根市中心障害者在宅福祉推進協議会設立総会を開催。構成組織十四団体となり、

東根市手をつなぐ親の会会長である阿部前理事長が、自分の土地を使つて作業所を作ろうと計画を練りました。それは、昭和五十五年の夏頃だったと思います。

昭和五十五年十二月二十日、通所小規模作業所設置準備委員会を開催。構成メンバーは、東根市手をつなぐ親の会、東根市社会福祉協議会、東根市福祉事務所、誘致企業協議会、民生児童委員協議会、ロータリークラブの方々でした。

昭和五十六年二月篤志家（小林氏）より、作業所建設用地を無償で提供して下さる由の申し出が

ありました。集めをしやすくするには、別の組織を作り多くの人々に参加して頂くべきなどの提案があり、昭和十六年五月八日、東根市中心障害者在宅福祉推進協議会設立総会を開催。構成組織十四団体となり、会長に東根市医師会会長大沼行之氏（現東根福祉会理事長の父）、副会長に阿部忠男氏（前当法人理事長）を選任。大沼会長が、全市区長協議会に作業所建設資金募集の協力を要請（全世帯二戸三百円）し、八月には作業所名を公募「大げやき作業所」と決まり、昭和五十八年十月一日、皆様の協力により開所式を行い、訓練生七名で作業が始まりました。

平成十二年一月にこすもすの家の分場として現在に至っております。

ここに至るまでの阿部忠男前理
りませんでした。今、改めて尊敬と敬意を申し上

げご苦勞様でしたと心から感謝い
たします。

はつらつと桃音高く建設す
通所作業所福祉の城

在宅の障害者の人通わせて生きる
は、び大けやき作業所



四方市民の淨賤基金福祉の館
大きく育て大けやき作業所

理事長直筆の短冊

阿部忠男前理事長の思い出

庄内心身障害児者親の会
会長 佐々木 茂

阿部忠男さんのお付き合いは
何年になるでしょうか。山形県手
をつなぐ親の会を通してのものな
のですが、私自身は信頼しあえる
友人関係のような感覚であったよ
うに思います。さまざまな機会に
障害者の福祉の具現化について腹
藏なく語り合いました。
今回の訃報を聞くにあたり、深
い悲しみであったと同時に、障害
者福祉のため精力的に活動する阿
部さんの姿が目につかび、感謝の

気持ちで前面に湧き出てくるので
す。本当にありがとう。ご苦勞様
でした。
最後にお会いした思い出は、昨
年第十五回山形県知的障害者福祉
大会を鶴岡市心身障害児者親の会
が担当し庄内地区にて開催した際
のことでしょうか。大会における
理事長のお話は、いつものように
豪胆かつ進歩的で具体性のあるも
のでした。地域や行政に対する正
当な要求の必要とともに、親の



第15回 山形県知的障害者福祉大会

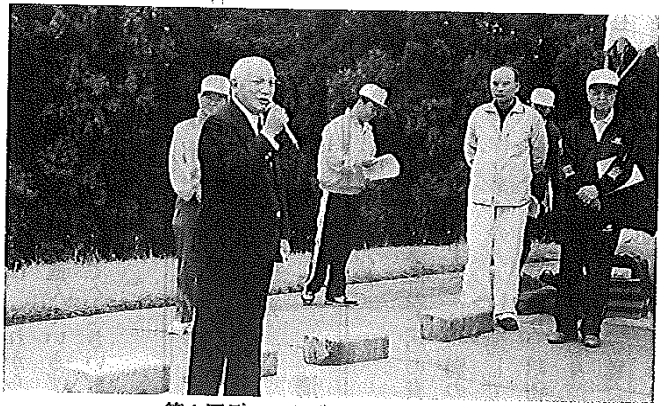
会会員自身が行動力を常に持ち前
進することが、真のノーマライ
ゼーションに繋がるという内容で
ありました。
私は今、あなたの障害者福祉に
かける思いを確実に受け継ぎ実践
したいと考えています。

平成十二年四月に山形県障害者
フライングディスク協会が発会し
てから今日に至るまで、阿部理事
長には、当協会の会長として大変
なご尽力をいただきました。
会長を思い起こす時、総会や理
事会等の折のあのにこやかな笑顔
がよみがえってきます。また、私
は会長とお会いするたびにいつも
握手をさせていただきまし
た。会長の太い指、手のぬ
くもり、そして何よりも力
強く握り返す(少々痛いほ
どの)あの力を今も覚えて
います。私が手を差し伸べ
たのは、きっと会長が持つ
パワーを分けてもらいた
かったからなのだと思います。
そして、会長もそのこ
とを察し、何かしらの励ま
しを握り返すあの力の中に
こめて下さっていたのだと
考えています。
このように、協会にお出
でいただいた時には、所属
している組織や団体という

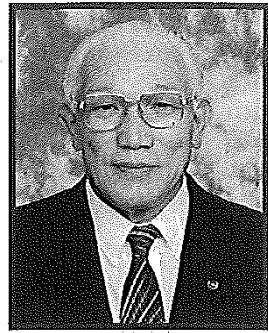
阿部会長を偲んで

山形県障害者フライングディスク協会
事務局長 鈴木 一成

立場を超えて、いつもやさしく支
えていただいたように思います。
もう阿部会長と握手をすること
はできませんが、あの力強さとぬ
くもりを心に刻み、時の重なり
に負けずに協会活動を推進してい
たいと思います。
どうぞ、遠くから見守りくださ
い。



第1回ディスクゴルフ大会での挨拶



阿部理事長の 経歴・顕彰

経歴

- 昭和6年 山形県北村山郡小田島村生
- 40年 東根市心身障害者の福祉向上に関わる活動に参加
- 43年 東根市手をつなぐ親の会結成活動を開始
- 46年 東根市手をつなぐ親の会会長就任
- 49年 山形県手をつなぐ親の会評議員就任
- 50年 東根市市議会議員初当選（二期二十八）
- 54年 山形県手をつなぐ親の会理事兼副会長就任
- 56年 小規模授産施設「大けやき作業所」開所
- 平成5年 山形県手をつなぐ親の会理事長就任
- 山形県社会福祉協議会委員就任
- 山形県心身障害児者を励ます会副会長就任
- 山形県社会福祉協議会理事就任

顕彰

- 昭和56年 山形県体育協会功労賞受賞
- 60年 警察庁長官表彰状受賞
- 平成2年 山形県知事表彰状受賞
- 全日本手をつなぐ育成会表彰状受賞
- 4年 山形県知事感謝状受賞
- 6年 厚生大臣表彰状受賞
- 13年 山形県教育功労賞受賞

スポーツ大会でのエピソード

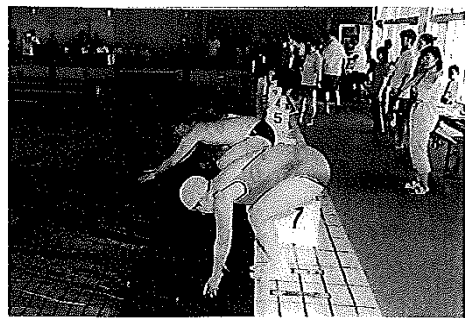
山形県知的障害者スポーツ大会専門委員会
委員長 鈴木孝彦

山形県知的障害者スポーツ大会専門委員会が組織化されたのは、平成三年だったと思います。その当時は委員も十名ほどで、会場も県内持ち回りで、開催地の親の会の方々、施設の職員が中心で、そのサポート的役割での発足でした。平成五年の大会から、天童市の県総合運動公園陸上競技場と決め、毎年開催されるようになりました。全権が専門委員に委ねられ、一からの出直して、何度か会議を持ちましたが、過去の大会が頭から離れず、発展的意見がでない問題山積みで船出でした。そんなとき、阿部前理事長が一言、「皆さんのやりたいようにやればいい。今までにこだわらずに初めてなんだから失敗したっていいだろう。」で、全員何か吹っ切れたように思います。



ゆうあいフライングディスク大会

あれから十年、委員の数も増え、参加者も二千人を超える大きな組織になりました。二年間委員長をさせていただき、会議等で困ったときに、自分の口から出た言葉が、「今までにこだわらず、やりやすいようにやりましょう。」でした。まさに、平成五年に前理事長がおっしゃられた言葉だったので、今まで、三つの知的障害者スポーツ大会を陰か



ゆうあいスイミング大会



友愛スポーツ大会

ら支えていただき本当にありがとうございます。前理事長のエピソードは多々ありますが、一番心に残っているものを書かせていただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。